

乳房再建の臨床研究を開始

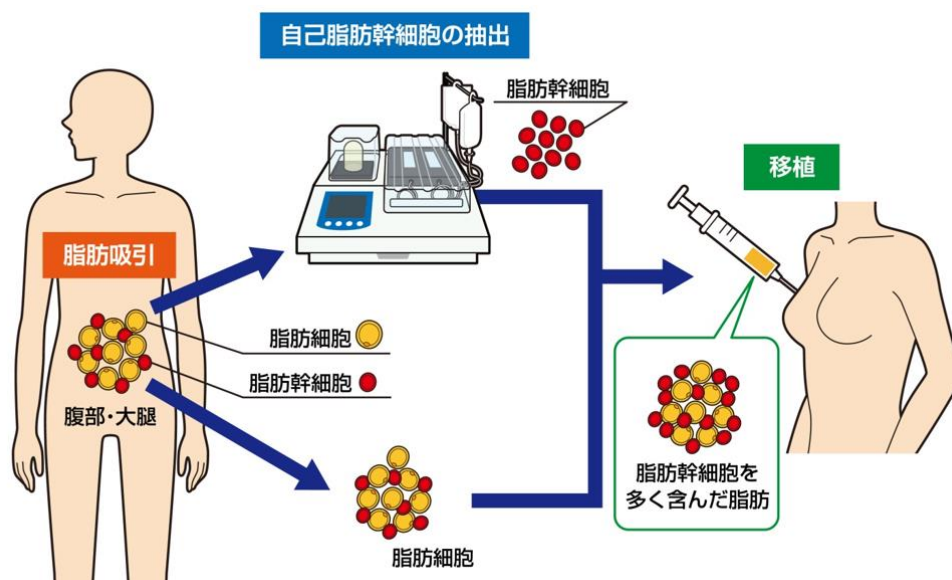
患者自身の脂肪から幹細胞を抽出し、乳房に

【本件のポイント】

- 脂肪幹細胞と自家脂肪を注入する新たな乳房再建術
- 皮膚を大きく切り取らず、傷跡も目立ちにくい
- 従来の術式に比較して、高い生着率が期待される

学校法人 関西医科大学（大阪府枚方市、理事長・山下敏夫、学長・友田幸一）形成外科学講座では楠本健司教授、覚道奈津子講師らの研究チームが患者自身の脂肪幹細胞を用いた新たな乳房再建術の研究に取り組んでおり、現在臨床研究を実施しています。

この乳房再建術では、まず専用の機械を用いて患者自身の太ももや、お腹などの脂肪を吸引し、脂肪や血管を作る細胞（脂肪幹細胞）を抽出。それを濃縮し、吸引した脂肪と混ぜ合わせたものを患部に注入することで、皮膚を大きく切開することなく乳房を再建することができる方法です。



なお、この治療は保険適用外ですが臨床試験の研究費を使用するため、患者自身に治療費の負担はありません。また、5 名の方に参加をお願いする予定です。

【本件取材についてのお問合せ】

学校法人 関西医科大学 広報戦略室（田村、岡田、佐脇、小森）

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1

電話：072-804-2128 ファクス：072-804-2547 メール：kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

この臨床研究の対象となる方

- ① 乳癌に対し乳房温存療法術後、1 年以上経過している方
 - ② 上記①の乳房温存手術時の臨床病期が T1 かつ NOMO の早期乳癌であった方
(同側多発、両側乳癌の方は参加できません)
乳癌の組織学的所見としてエストロゲン受容体陽性(陽性細胞 1 %以上)であり、HER2 は以下のいずれかに該当する方
 - ・ 原発巣の検体組織の腫瘍細胞中で、免疫組織染色 (IHC) が (－) または (1+) の場合
 - ・ 原発巣の検体組織の腫瘍細胞中で、IHC が (2+) かつ FISH 陰性の場合
 - ③ 乳癌に対する抗がん剤の投与歴がない方
- ※この他にも基準があります。検査結果によってはご参加いただけない場合があります

臨床研究のスケジュール

臨床研究
の説明

- ・研究に関する詳しい説明を行います
- ・参加基準を確認するため、検査を実施することがあります

手術

- ・脂肪幹細胞を移植する方法を用いた乳房再建術を行います

観察期間

- ・術後1週目、4週目、16週目、48週目に診察および検査を受けていただきます

この新しい再建術は、従来の脂肪のみを注入する方法と比較して脂肪定着の可能性が高く、従来の方法では難しいとされる部分的にくぼんだ乳房の再建にも適用できることから、患者の QOL 向上に大きく貢献することが期待されています。

本学では、この脂肪幹細胞を用いた乳房再建術の臨床研究に参加を希望する方を募集しています。関心のある方は、下記本学臨床研究支援センターまでお問い合わせください。

【本臨床研究についての問合せ先】

関西医科大学 臨床研究支援センター

電話 072-804-0101 (代表) 月～金 (祝日を除く) 9:00～17:00

【本件取材についてのお問合せ】

学校法人 関西医科大学 広報戦略室 (田村、岡田、佐脇、小森)

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1

電話：072-804-2128 ファクス：072-804-2547 メール：kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp